

保育士・幼稚園教諭養成における
ピアノ学習初心者への指導について

成 田 潤 子

Coaching Method for Piano Beginners
in Nursery and Kindergarten Teacher Training

Junko Narita

豊岡短期大学 論集

第 14 号 別 冊

平成 30 年 2 月 28 日 発 行

保育士・幼稚園教諭養成におけるピアノ学習初心者への指導について

Coaching Method for Piano Beginners in Nursery and Kindergarten Teacher Training

成田 潤子

Junko Narita

はじめに

健やかな子どもの成長に不可欠な音楽は、保育者・教育者にとって非常に重要な分野であることは言うまでもなく、保育者・教育者養成校において、その音楽表現の力を向上させるために、ピアノ実技が取り入れられている。しかしながら、その習得は容易ではない。実技科目であり、個人の能力差がはっきりと表れ、地道な努力の積み重ねでしか習得できず、その意欲を維持していくことが極めて難しいのも現実である。ここでは、長年の課題である「どうしても自ら進んで課題に取り組むことができるのか」を、先行研究を参考に^{1) 2) 3)} 学生のピアノ実技に関する実態と練習に対する意識調査を行い、現状に合わせた指導の試みと課題を検討した。

調査 1 回目

- | | |
|------|---|
| 調査対象 | 本校こども学科 1年生38人 2年生34人 |
| 調査時期 | 2017年7月 |
| 調査方法 | 質問紙調査 (記名式にして、各学生へのきめ細かな指導の参考にした。) |
| 調査内容 | 1) 本校入学までに、ピアノを習ったことがありますか?
2) 習ったことがある方、Aどのくらいの期間ですか?
Bそれはいつですか?
Cどんなレベルまで到達しましたか?
3) ピアノ以外で経験のある楽器はありますか?
4) 入学前と比較し、自分のピアノ技術の到達度はどのように感じていますか?
5) 練習頻度はおよそどのくらいですか?
6) 一日の練習時間はおよそどのくらいですか?
7) 自分の練習時間は十分ですか?
8) どうしたら、十分な時間を確保できると考えますか? |

- 9) 自分の練習内容は十分ですか？
 10) なぜ十分でないと考えますか？
 11) ピアノ練習に意欲が湧いたときは、どんなときでしたか？
 12) ピアノ練習に意欲が湧かないときは、どんなときでしたか？
 13) ピアノ上達には何が必要だと考えますか？
 14) 上記のように考えた理由やピアノ学習について、自由に書いて下さい。

調査 2回目

調査対象 本校こども学科1年生38人

調査時期 2017年8月

調査方法 1回目に同じ

- 調査内容 1) 音符ドリルは、ピアノ練習に効果がありましたか？
 2) リズム打ちは、ピアノ練習に効果がありましたか？

調査結果と考察

本校入学前のピアノレッスン経験の有無については、表1で見られるように、1年生、2年生ともにピアノ経験無しの学生が50%を超え、しかも2年生の56%に対して1年生が76%と格段に増えている。つまり、ほとんどの学生が未経験である。経験の有無について正確なデータは残っていないが、数年前とは逆転していると思われる。これは、予想以上の結果だった。また、ピアノ経験が無く、他の楽器の経験も特には無い学生が1年生37%、2年生38%と全体の3割以上が楽器を手にしたことが無く、「音を奏でること」を身近なものとするところから始めなくてはならない状況であることがよくわかる。

表1 本校入学までに、ピアノを習ったことがありますか？

本校入学までに、ピアノ以外で経験のある楽器はありますか？

n = 1年生38 人 (%)

1年生	他楽器経験有り	他楽器経験無し
ピアノ経験有り 9 (24)	7 (18)	2 (5)
ピアノ経験無し 29 (76)	15 (39)	14 (37)

n = 2年生34 人 (%)

2年生	他楽器経験有り	他楽器経験無し
ピアノ経験有り 15 (44)	8 (23)	7 (21)
ピアノ経験無し 19 (56)	6 (18)	13 (38)

本校では、学園祭でクラス対抗の合唱コンクールを開催したり、本物に触れる目的で、毎年プロの演奏家を招いてクリスマス・コンサート、又はニューイヤー・コンサートを開催したりして、生の音楽に触れ表現することの素晴らしさを実感できるような活動を用意している。これらの学校行事は、直ぐにピアノ演奏に効果が表れるものではないが、貴重な体験として継続していかなければならないと改めて考えたところである。

表2 入学前と比較し、自分のピアノ技術の到達度はどのように感じていますか？

	n = 1年生 38		2年生 34		人 (%)
	上達した	少し上達した	あまり上達して いない	下手になった	
1年生	4 (11)	21 (55)	12 (32)	1 (3)	
2年生	4 (12)	21 (62)	8 (24)	1 (3)	

表2では、入学前より「1. 上達した」「2. 少し上達した」が1年生で66%、2年生では74%となっている。1年生は入学後3か月の結果としては妥当かもしれないが、2年生ではわずか8%の増加、「1. 上達した」は12%で1年生の11%と変わらない。入学前と比較しているのも、2年生はもっと多くの学生が上達したと感じて良いはずである。これは、課題の難易度が増したり就職が間近になったりして、問題意識が高まっていることからだと推察した。

表3 練習頻度はおよそどのくらいですか？

n = 1 年生 3 8					2 年生 3 4	人 (%)
	毎日	週に 4 回～ 5 回	週に 2 回～ 3 回	週に 1 回	授業時	その他
1 年生	1 (3)	3 (8)	7 (1 8)	1 4 (3 7)	9 (2 4)	4 (1 1)
2 年生	0 (0)	1 (3)	4 (1 2)	1 7 (5 0)	9 (2 6)	3 (9)

表4 自分の練習時間は十分ですか？

	n = 1年生 38		2年生 34		人 (%)
	十分だ	やや十分だ	どちらでも ない	あまり十分で ない	十分でない
1年生	2 (5)	4 (11)	20 (53)	7 (18)	5 (13)
2年生	5 (15)	2 (6)	9 (26)	14 (41)	4 (12)

表3のように、練習頻度は週に1回か授業のみかが1年生で61%、2年生で76%とあり、練習量が非常に少なく、2年生になって減少している。練習時間についても、表4で「あまり十分でない」「十分でない」が1年生の31%に対して2年生は53%となっていた。また、練習時間の確保に関しては、表5で多くの学生が「生活のリズムを変える」と答えており、自分の問題として理解している。本校では、2年生になってゼミナール活動が始まり、同時にボランティア活動も増えるので、時間の確保が難しくなっていることが伺える。又、自動車免許取得も就職に必要となり、自動車学校通学のために帰宅が遅くなることも一因と考えられる。

表5 どうしたら、十分な時間を確保できると考えますか？（複数回答可）

1 = 音楽の授業時間を長くする 2 = 休み時間を長くする 3 = 生活リズムを変える
4 = その他

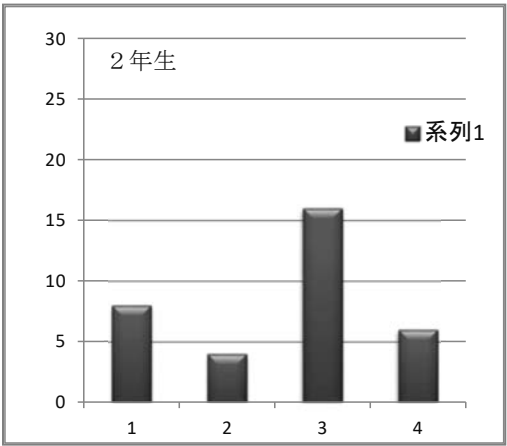
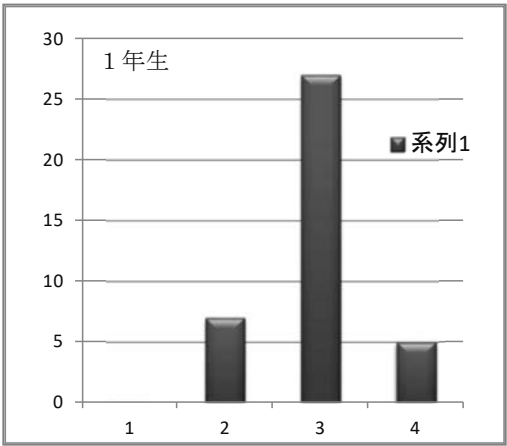


表6 自分の練習内容は十分ですか？

	n = 1年生 38		2年生 34		人 (%)
	十分だ	やや十分だ	どちらでもない	あまり十分でない	十分でない
1年生	5 (13)	12 (32)	12 (32)	7 (18)	2 (5)
2年生	6 (18)	1 (3)	12 (35)	12 (35)	3 (9)

練習内容について、表6にあるように、1年生の「十分でない」「あまり十分でない」が23%に対して2年生は44%で、ここでも2年生の問題意識や自己分析の高まりが分かる。しかしながら、次の段階として行動が伴っていないのが実情である。

表7 なぜ、練習内容が十分でないと思いますか？（複数回答可）

- 1 = 授業での説明が理解できない 2 = 自分で音名やリズムを調べることができない
 3 = 個人指導の時間がたりない 4 = 部分練習や反復練習が面倒 5 = 効果が感じられない
 6 = 緊張感・集中力が保てない 7 = 改善する気持ちがない 8 = その他

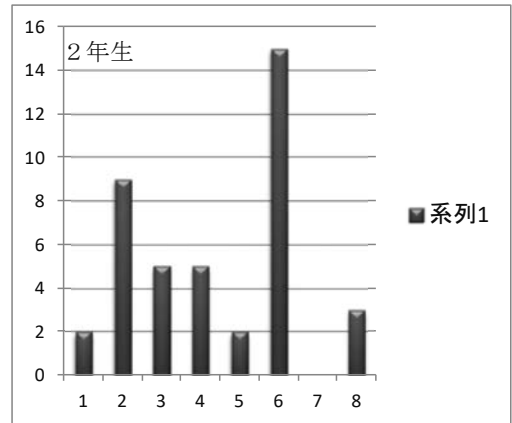
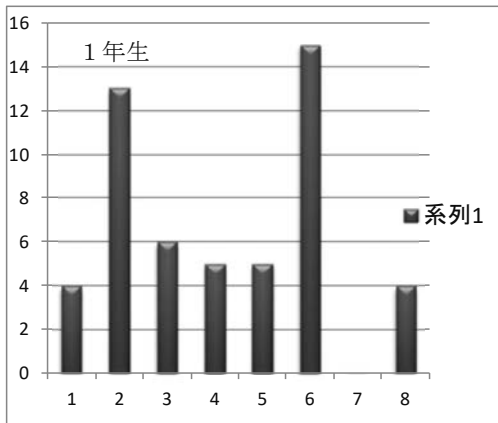


表7にあるように、練習内容が十分でない原因は、1年生、2年生とも「緊張感・集中力を保てない」「自分で音名やリズムを調べることができない」が圧倒的に多い。学生たちは他人の弾いている音を聴いてまねをすることから取り組もうとしていた。この「まねをすること」は技術を習得するうえで非常に重要で必要なことだが、読譜に関しては困った現象が起こる。初心者の学生は、経験者又は自分より進んでいる学生の手元をじっと見つめ、大体の位置と流れを記憶して曲を覚えようとしてしまう。ご承知の通り、この方法では最初の単純な曲には対応できるが、難しくなると目も耳も理解も追いつかない。結局、譜読みができなければ直ぐに限界がくるのである。「改善する気持ちがない」はゼロで、やはり、このままではいけないという意識ははっきりとあることが分かった。

また、意欲が湧くのは表8の「褒められたとき」「自信がついたとき」が圧倒的に多く、反対に意欲が湧かないときは、表9の「楽譜が読めない」「他人と比較し焦ってしまう」「苦手意識があり、逃れたい意識の方が強い」となっている。初心者にとって「楽譜」といういわゆる記号の集合を理解できなければ、周囲の学生と自分を比較し焦るだけで集中できず、理解する前に諦めたい気持ちでいっぱいになるというのが正直なところだと理解できる。本当に初歩的な事柄から習得したという実感が必要で、音名やリズムを自分の力で読み解くことができた時、「自信がつき」周囲から「褒められ」次への意欲が湧くのであろう。

表8 ピアノ練習に意欲的になったのは、どんなときでしたか？（複数回答可）

1＝褒められたとき 2＝自信がついたとき 3＝課題が好きな曲だったとき
4＝授業以外で役割がまわってきたとき 5＝試験前 6＝その他

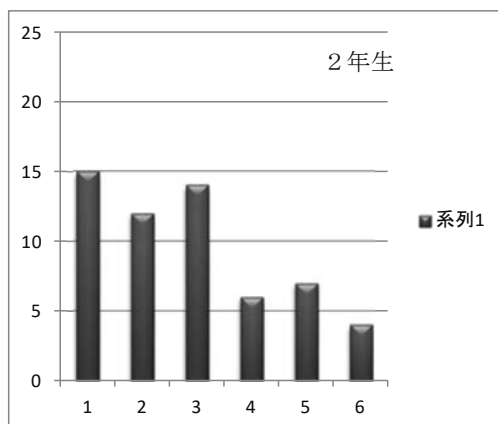
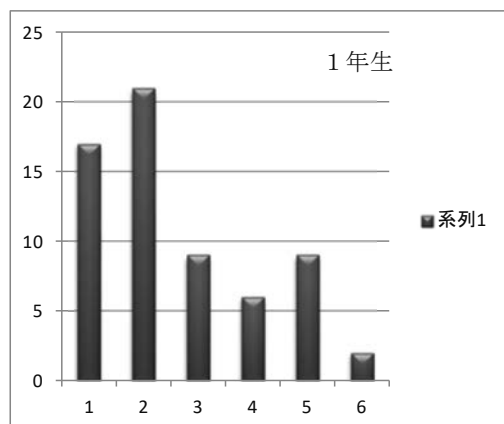
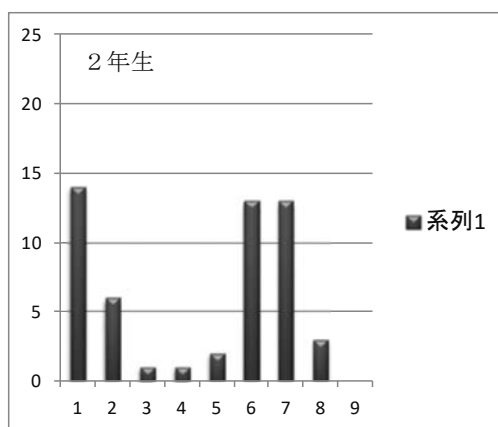
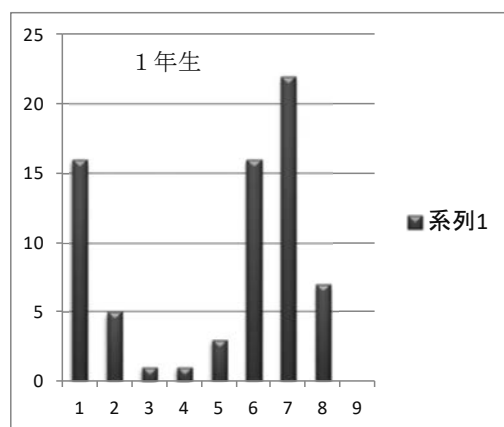


表9 ピアノ練習に意欲が湧かないときは、どんなときだと考えますか？（複数回答可）

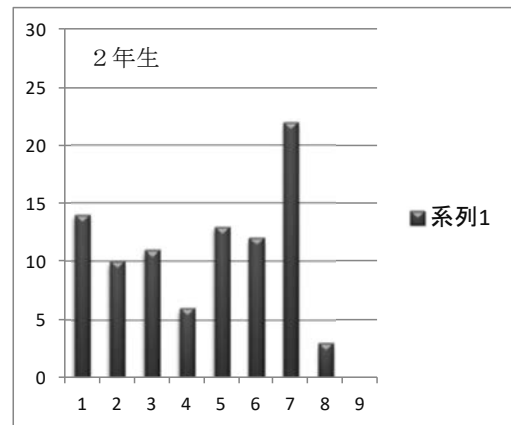
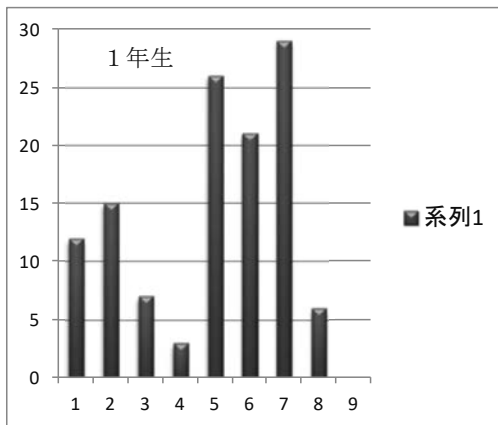
1＝楽譜が読めない 2＝練習環境が整わない 3＝ピアノ練習に必要性を感じない
4＝そもそも音楽嫌い 5＝先生に褒められない 6＝他人と比較し焦ってしまう
7＝苦手意識があり、逃れたい意識の方が強い 8＝全てにやる気がない 9＝その他



更に、表10 ピアノ上達には何が一番必要だと考えますかという問いでは、「集中力」が一番多く、次に1年生では、「ピアノに対する意識の向上」、2年生でも「時間や楽器所持などの環境整備」とほぼ同数で「ピアノに対する意識の向上」といった自分自身の内面的な原因を挙げていた。

表 10 ピアノ上達には何が必要だと考えますか？（複数回答可）

- 1 = 時間や楽器所持などの環境整備 2 = 一緒に練習し、教えあう仲間を増やす
 3 = 褒められること 4 = 取得資格を確認し就職現場の実態を知る
 5 = ピアノに対する意識の向上 6 = 忍耐力 7 = 集中力 8 = 分析し組み立てる力
 9 = その他



上記のような結果から、初心者にとって、楽譜から「ドレミを読む」「リズムを理解する」という作業が、難解で瞬時に読めないことが集中力に影響していると考え、楽譜を素早く読めるよう何度も読譜ドリルを用いて習得するよう試みた。既存のドリルの他に楽譜のコピーを使用して完成までのタイムを計測し、ゲーム感覚で取り組むことでドレミの読譜に役立てようとした。同じ問題をはじめは時間無制限で最後まで取り組む。その次は、目標タイムを設定し2回目、3回目と短縮していくものである。時間制限を設けることで、経験者であっても集中しケアレスミス無くクリアすることが必要となり、取り組みの意欲を損ねないように配慮した。リズム打ちも、簡易なものから始め、実際に弾こうとしているピアノ曲のリズム打ちを反復練習した。これらのドリル・練習を実施した後のピアノ練習では、表11、表12の質問紙調査の通り、「効果があった」が60%以上を占めた。非常に単純なドリルでも少なからず効果があったことが分かった。

表 11 音符ドリルは、ピアノ練習に効果がありましたか？

n = 1年生 38 人 (%)				
	効果があった	少し効果が あった	あまり効果がな かった	効果がなかった
1年生	24 (63)	14 (37)	0 (0)	0 (0)

表12 リズム打ちは、ピアノ練習に効果がありましたか？

n = 1 年生 38 人 (%)				
	効果があった	少 し 効 果 が あ っ た	あ ま り 効 果 が な か っ た	効 果 が な か っ た
1 年 生	23 (61)	14 (37)	1 (3)	0 (0)

まとめ

読譜の要領を理解した学生は、その後は自分の練習ペースを見出すことができているようだが、まだ全体としての効果は見られず、依然として演奏することに対して消極的な学生が多い。苦手意識の強いピアノ実技の科目にあつては、各学生がいかに自信を持って自発的に取り組むようになるかが非常に大切である。誰も苦手なものは避けたい、しかし、保育士・幼稚園教諭には絶対に必要なスキルで自己を成長させるチャンスとして取り組まなければならないことも学生たちは理解している。学生の努力を引き出すためには、「理解」「成果」を実感して「評価」されることの充実感を積み重ねていくことが重要だという結果をみた。指導者は、基礎的な反復練習の大切さや、その先にある音楽表現することの楽しさを伝え、忍耐力や集中力を保ち続ける為の精神的な支えとなることも必要であろう。学生の現状をあらためて確認できたので、今後も初心者ペースを見極めその時々適切な指導をすることで、意欲的に取り組めるよう導きたい。

参考文献

- 1) 小野由恵「保育者・教育者養成におけるピアノ学習の実態調査に基づく学習支援の課題」
北海道文教大学論集第13号 83-96 2012
- 2) 今井由恵「保育者・教育者養成における「ピアノ学習に対する意識変容に関する調査と分析」
北海道文教大学論集第14号 97-112 2013
- 3) 澤田悦子、佐々木るり子、前田有紀、砂田真理子、野末章子、村上秀子、中川洋子、石田敏明、
橋本卓三「ピアノ学習における音楽力向上の現状と課題：器楽Ⅰ・Ⅱの調査から 北翔大学短期
大学部研究紀要第54号 83-91 2016